

電気・精密機器

1. 評価対象企業（25 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（10 社）

日 立 製 作 所、三 菱 電 機、オ ム ロ ン、日 本 電 気、富 士 通、
ルネサス エレクトロニクス、パナソニック ホールディングス（注）、
シャープ、ソニーグループ、ヤマハ

【電子部品部門】（7 社） ミネベアミツミ（新規）、日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、 日東電工

【精密機器部門】（8 社） 富士フイルムホールディングス、ディスコ、セイコーエプソン、 アドバンテスト、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）パナソニックが商号を変更した（2022 年 4 月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	10
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 70 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 75 名（所属先 30 社）である。（71 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 66～69 頁参照）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 74.1 点（昨年度 74.2 点）、総合評価点の標準偏差は 7.8 点（昨年度 9.6 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、精密機器部門（8 社）が 75.5 点（昨年度 77.0 点）、産業・民生エレクトロニクス部門（10 社）が 73.5 点（昨年度 72.0 点）、電子部品部門（7 社）が 73.4 点（昨年度 74.1 点）となった。昨年度に比べ、産業・民生エレクトロニクス部門が上昇したが、電子部品部門と精密機器部門はやや下げた。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度74%）、**説明会等**が74%（昨年度76%）、**フェア・ディスクロージャー**が84%（昨年度同率）、**ESG関連**が75%（昨年度72%）、**自主的情報開示**が65%（昨年度68%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全14項目のうち、**フェア・ディスクロージャー**の次の2項目が80%以上の平均得点率となり（昨年度も同項目）、高水準となった。

- (a) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率85%）（得点率（評価点／配点（以下省略））：90%台5社・80%台15社・70%台5社）
- (b) 「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていますか」（平均得点率83%）（得点率：90%台5社・80%台13社・70%台5社・60%台2社）

- ⑤ 一方、**自主的情報開示**の次の項目は平均得点率が65%と、昨年度に続き最も低かった。

- ・ 「ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率65%）（得点率：30%台1社・40%台1社・50%台7社・60%台8社・70%台4社・80%台4社）

- ⑥ 非財務情報に関連する項目（**ESG関連**の4項目）は、昨年度に比べ大幅に評価内容を変更したが、次のとおり、いずれも70%台となった。

- (a) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率78%）（得点率：50%台1社・60%台3社・70%台8社・80%台11社・90%台2社）
- (b) 「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考えるESGに関連する情報を積極的に開示していますか」（平均得点率77%）（得点率：50%台1社・60%台4社・70%台10社・80%台9社・90%台1社）
- (c) 「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率72%）（得点率：40%台1社・50%台1社・60%台6社・70%台9社・80%台8社）
- (d) 「（上記(a)～(c)の）ESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか」（平均得点率75%）（得点率：50%台3社・60%台3社・70%台9社・80%台8社・90%台2社）

(2) 全体の上位3企業の評価概要

第1位 オムロン（ディスクロージャー優良企業〔3回連続8回目〕、総合評価点85.5点〔昨年度比－0.8点〕）

- ① 同社は、**ESG関連**が第1位（得点率（以下省略）88%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位（93%）、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（84%）、**説明会等**が第3位（84%）、**自主的情報開示**が第5位（79%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が、最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していること」も、高く評価された。これらに関連して、トップマネジメントが企業価値の重要性を認識し、積極的な対応を行っているとの声や、ESGが経営理念にビルトインされており、ESG重視の姿勢が感じられるとの声が寄せられた。また、ESG説明会の定期的開催による情報発信や、説明資料や開示内容の充実を評価する声もあった。なお、「IR部門の機能、基本的スタンス」は第8位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が、同得点第1位となった。また、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」（同得点第2位）も高く評価された。これらに関連して、投資家のニーズをよく把握した説明資料となっているとの声や、地域別数値、製品別売上などの詳細な開示により理解が深まるとの声が寄せられた。なお、詳細な開示内容を評価しつつも、利益増減分析に関してさらに工夫を求める声もあった。「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説

明していること」および「インタビュー等における開示」は、いずれも 80%以上の得点率となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が、同得点第 1 位となった。また、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていること」も、同得点第 2 位と高い評価となり、これらの結果、この分野において同得点第 1 位となった。これらに関連して、大型買収などに関しても遅滞なく十分に情報開示を行っていること、開示に関して公平性にも配慮していることを評価する声のほか、説明会、取材へのリモートツール対応を評価する声も寄せられた。なお、資料などの日本語・英語同時対応を評価しつつ、英語での情報提供の一層の充実を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」および「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していること」が共に、最も高い評価となった。また、「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（第 2 位）が、高く評価され、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 3 位）も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、ESG に関連して全体的に優れた開示が行われているとの声のほか、中期経営計画で S（社会）に関する KPI の開示とそれが企業価値向上につながるプロセスを示したことを評価する声が寄せられた。なお、JMDC との資本業務提携について一層の説明を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 5 位であった。これに関連して、長期ビジョン・中期経営計画説明会を評価する声が多く寄せられた。なお、各セグメントについて事業別説明会等でのさらなる説明を求める声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 日立製作所（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 84.5 点〔昨年度比+0.7 点〕、昨年度第 3 位〔一昨年度第 3 位〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位（85%）、ESG 関連が第 2 位（88%）、自主的情報開示が同得点第 3 位（80%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（88%）、説明会等が第 9 位（81%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野で順位が上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 2 位）および「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第 3 位）が共に、高く評価された。また、「IR 部門の機能、基本的スタンス」も、同得点第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップ自らが IR に関与し、わかりやすく情報発信をしていること、経営陣の企業価値向上への意識が高いことを評価する声が寄せられたほか、自社の目指す姿について繰り返し説明し投資家とも共有できているとの声や、CSO が、環境への取組みが企業価値向上につながることなどを的確に伝えているとの声もあった。また、IR 部門のレスポンスの早さ、情報共有の徹底などを評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料に必要なかつ十分な情報が網羅されていること」が、同得点第 1 位であった。これに関連して、決算プレゼンテーション資料や補足資料の情報の豊富さや補足資料におけるセグメント詳細の開示を評価する声が寄せられた。他の 3 項目については昨年度と同程度の得点率となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていること」が、同得点第 2 位で高い評価となった。「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」は、平均得点率をやや上回った。これらに関連して、YouTube での説明会同時視聴や日英同時通訳などのリモート化・グローバル化を評価する声が寄せられた。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」（同得点第 3 位）、「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していること」（第 2 位）、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（第 2 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（第 3 位）が、いずれも高い評価となった。これらの結果、この分野において、第 1 位と僅差の第 2 位となった。これに関連して、ガバナンスにおいて外国人や女性登用等、ダイバーシティを考慮した開示がされていることや、本業自体の CO2 削減への貢献を説明していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」が、同得点第 3 位となった。これに関連して、ESG 説明会のほかに、Investor Day を評価する声が多く寄せられ、Investor Day では社外取締役セッションを評価する声もあった。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第 3 位 ソニーグループ（総合評価点 83.2 点〔昨年度比－0.3 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 4 位（82%）、**ESG 関連**が同得点第 4 位（85%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 5 位（89%）、**説明会等**が第 10 位（80%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」が、同得点第 1 位となった。また、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 3 位）も、高く評価された。これらに関連して、説明会とその後のミーティング等において経営陣が直接説明し、対話する体制ができていて、経営陣がそれぞれの役割分担で説明していることなどを評価する声寄せられた。また、戦略の方向性の説明が明確であること、ESG 関連の説明会が継続して開催されていることを評価する声もあった。なお、「IR 部門の機能、基本的スタンス」は、平均得点率と同程度となったが、これに関連して、多岐にわたる事業領域のため情報の集積、整理に困難な面があるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料が必要かつ十分な情報が網羅されていること」が、同得点第 1 位となり、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も、同得点第 2 位と高く評価された。これらに関連して、各事業分野の売上高、営業利益、定性的な増減益要因の説明が十分であること、補足資料の内容が充実し、継続性もあることを評価する声寄せられた。一方、エンタテインメントの開示が充実したがエレクトロニクスの開示は後退したとの声もあった。「主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていること」は、平均得点率と同程度となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、ウェブへの同時配信がオープンかつグローバルになされていること、決算説明会は質疑応答の内容を含めて後日視聴可能であることを評価する声寄せられた。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」については、平均得点率と同程度となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」（同得点第 3 位）および「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していること」（第 3 位）は共に、高く評価された。また、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 5 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 4 位）は、いずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG 説明会と統合報告書の内容で十分に説明がされている、レポートだけでなく ESG データ集も見やすいとの声寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は、最も高い評価となった。これに関連して、ESG 説明会、事業説明会、Technology Day、I&SS デモンストレーション体験会を評価する声寄せられ、また、厚木テクノロジーセンターの見学が有意義との声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ ミネベアミツミ（総合評価点 82.6 点、同得点第 4 位）

- ① 同社は、本年度から新規に評価対象とした会社である。フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（93%）、説明会等が第 2 位（84%）、ESG 関連が第 3 位（85%）、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（81%）、自主的情報開示が第 12 位（67%）と、4 分野で上位となり、総合評価点において同得点第 4 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が、いずれも 80%以上の得点率となった。これに関連して、経営トップの説明が明快である、カーボンニュートラル関連の開示に積極的であるとの声が寄せられた。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」は第 4 位となった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できること」が、最も高い評価となった。また、「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していること」および「インタビュー等における開示」も共に、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において、第 1 位と僅差の第 2 位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「リモートツールによる情報提供・グローバル対応」が共に、90%以上の得点率となり、この分野において同得点第 1 位となった。これに関連して、説明会の質疑応答まで動画掲載していることを評価する声が寄せられたほか、質疑応答をまとめた議事録の開示は有益との声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」が、最も高い評価となった。また、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」も、第 1 位と僅差の第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 3 位となった。これらに関連して、温室効果ガス排出量に関して Scope3 を開示していること、また、自社製品によって削減した CO2 量を開示していることを評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は、平均得点率をやや上回った。

○ 村田製作所（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 79.3 点〔昨年度比+1.8 点、一昨年度比+8.4 点〕、同得点第 7 位〔昨年度第 10 位、一昨年度第 13 位〕）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（85%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（88%）、ESG 関連が第 9 位（79%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 9 位（78%）、自主的情報開示が第 14 位（65%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野で順位を上げた。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が同得点第 4 位、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が第 9 位となった。これらに関連して、経営陣の企業価値向上に向けた意識が高いとの声や、企業価値拡大の戦略と ESG の取組みが一定程度紐づけられているとの声が寄せられた。また、IR 部門とのディスカッションが有益との声も寄せられた。なお、経営陣と投資家との接点をより一層望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」の 2 項目が共に、高く評価された。また、「インタビュー等における開示」（同得点第 3 位）および「説明会資料等における開示」（第 4 位）も共に、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、エンドマーケット別の需要見通しなどの詳細な想定が開示されていることを評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が、90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供・グローバル対応」も 85%以上の得点率となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」が共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、温室効果ガス排出量に関して Scope3 の一部を開示していることを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外

取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は、平均得点率と同程度にとどまったものの、昨年度に比べて 5 ポイント以上改善した。これに関連して、Information Meeting を評価する声が多く寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

オムロン（総合評価点 85.5 点、全体第 1 位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点 82.6 点、全体同得点第 4 位）

【精密機器部門】

東京エレクトロン（総合評価点 82.6 点、全体同得点第 4 位）

以 上

2022年度 ディスクロージャ―評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ―		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6645 オムロン	85.5	26.9	2	16.7	3	9.3	1	24.7	1	7.9	5	1
2	6501 日立製作所	84.5	27.1	1	16.1	9	8.8	6	24.5	2	8.0	3	3
3	6758 ソニーグループ	83.2	26.2	4	16.0	10	8.9	5	23.7	4	8.4	1	4
4	6479 ミネベアミツミ	82.6	26.0	5	16.8	2	9.3	1	23.8	3	6.7	12	
4	8035 東京エレクトロン	82.6	26.6	3	16.5	4	8.7	9	22.8	7	8.0	3	5
6	4901 富士フイルムホールディングス	79.6	25.5	7	15.2	13	8.5	14	22.3	8	8.1	2	2
7	6981 村田製作所	79.3	25.1	9	16.9	1	8.8	6	22.0	9	6.5	14	10
7	7752 リコー	79.3	25.1	9	14.5	17	8.6	11	23.4	6	7.7	6	6
9	6702 富士通	77.3	24.3	11	14.2	18	8.3	15	23.7	4	6.8	10	11
10	6594 日本電産	76.7	24.1	12	16.5	4	9.1	3	21.9	10	5.1	22	7
11	6724 セイコーエプソン	76.2	23.9	13	14.6	16	8.3	15	21.9	10	7.5	7	17
12	7951 ヤマハ	75.2	25.8	6	15.9	11	8.2	17	21.6	12	3.7	25	9
13	7741 HOYA	74.4	25.5	7	16.2	6	8.6	11	18.9	21	5.2	21	13
14	6857 アドバンテスト	74.3	23.5	14	15.1	14	7.8	21	20.9	15	7.0	8	8
15	6762 TDK	74.0	22.8	15	16.2	6	8.8	6	20.6	17	5.6	20	11
16	6963 ローム	72.8	21.9	18	15.3	12	8.7	9	21.0	14	5.9	17	15
17	6723 ルネサスエレクトロニクス	71.8	22.4	16	16.2	6	8.6	11	17.8	23	6.8	10	14
18	6701 日本電気	70.7	22.2	17	13.0	21	7.8	21	21.1	13	6.6	13	19
19	6146 デイスコ	68.8	21.2	19	14.8	15	8.2	17	18.5	22	6.1	16	16
20	6971 京セラ	68.3	20.3	21	13.5	19	9.0	4	19.7	20	5.8	19	18
20	7751 キヤノン	68.3	20.2	22	13.4	20	8.1	19	20.7	16	5.9	17	22
22	6752 パナソニックホールディングス	68.1	20.5	20	12.8	22	7.9	20	20.0	19	6.9	9	21
23	6503 三菱電機	66.1	19.5	23	12.7	23	7.3	24	20.4	18	6.2	15	24
24	6988 日東電工	59.8	18.4	24	12.4	24	7.5	23	16.5	24	5.0	23	20
25	6753 シャープ	52.2	16.5	25	9.3	25	7.1	25	15.2	25	4.1	24	23
	評価対象企業評価平均点	74.08	23.26		14.84		8.41		21.11		6.46		

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（産業・民生エレクトロニクス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 32点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目2 (配点 10点)	評価項目4 (配点 28点)	評価項目1 (配点 10点)	
1	6645 オムロン	85.5	26.9	16.7	9.3	24.7	7.9	3
2	6501 日立製作所	84.5	27.1	16.1	8.8	24.5	8.0	2
3	6758 ソニーグループ	83.2	26.2	16.0	8.9	23.7	8.4	1
4	6702 富士通	77.3	24.3	14.2	8.3	23.7	6.8	5
5	7951 ヤマハ	75.2	25.8	15.9	8.2	21.6	3.7	10
6	6723 ルネサスエレクトロニクス	71.8	22.4	16.2	8.6	17.8	6.8	5
7	6701 日本電気	70.7	22.2	13.0	7.8	21.1	6.6	7
8	6752 パナソニックホールディングス	68.1	20.5	12.8	7.9	20.0	6.9	4
9	6503 三菱電機	66.1	19.5	12.7	7.3	20.4	6.2	8
10	6753 シャープ	52.2	16.5	9.3	7.1	15.2	4.1	9
	評価対象企業評価平均点	73.46	23.14	14.29	8.22	21.27	6.54	

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 32点)	評価点	評価項目4 (配点 20点)	評価点	評価項目2 (配点 10点)	評価点	評価項目4 (配点 28点)	評価点	評価項目1 (配点 10点)	評価点	
1	6479 ミネベアミツミ	82.6		26.0	1	16.8	2	9.3	1	23.8	1	6.7	1
2	6981 村田製作所	79.3		25.1	2	16.9	1	8.8	4	22.0	2	6.5	2
3	6594 日本電産	76.7		24.1	3	16.5	3	9.1	2	21.9	3	5.1	6
4	6762 TDK	74.0		22.8	4	16.2	4	8.8	4	20.6	5	5.6	5
5	6963 ローム	72.8		21.9	5	15.3	5	8.7	6	21.0	4	5.9	3
6	6971 京セラ	68.3		20.3	6	13.5	6	9.0	3	19.7	6	5.8	4
7	6988 日東電工	59.8		18.4	7	12.4	7	7.5	7	16.5	7	5.0	7
	評価対象企業評価平均点	73.37		22.65		15.38		8.75		20.79		5.80	

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位	
			評価項目3 (配点 32点)	評価点	評価項目4 (配点 20点)	評価点	評価項目2 (配点 10点)	評価点	評価項目4 (配点 28点)	評価点	評価項目1 (配点 10点)	評価点		
1	8035 東京エレクトロン	82.6		26.6	1	16.5	1	8.7	1	22.8	2	8.0	2	2
2	4901 富士フイルムホールディングス	79.6		25.5	2	15.2	3	8.5	4	22.3	3	8.1	1	1
3	7752 リコー	79.3		25.1	4	14.5	7	8.6	2	23.4	1	7.7	3	3
4	6724 セイコーエプソン	76.2		23.9	5	14.6	6	8.3	5	21.9	4	7.5	4	7
5	7741 HOYA	74.4		25.5	2	16.2	2	8.6	2	18.9	7	5.2	8	5
6	6857 アドバンテクト	74.3		23.5	6	15.1	4	7.8	8	20.9	5	7.0	5	4
7	6146 ディスコ	68.8		21.2	7	14.8	5	8.2	6	18.5	8	6.1	6	6
8	7751 キヤノン	68.3		20.2	8	13.4	8	8.1	7	20.7	6	5.9	7	8
	評価対象企業評価平均点	75.46		23.94		15.05		8.35		21.18		6.94		

2022年度評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（32点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものです。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもち、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)リモートツールによる情報提供・グローバル対応	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	7
②気候変動問題に限らず、各企業が重要と考えるESGに関連する情報を積極的に開示していますか。	7
③資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	7
④上記①～③のESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか。	7
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シティグループ証券
	綾田 純也	JP モルガン証券
	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	富井 喜隆	MU 投資顧問
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	野村証券

評価実施アナリスト（75名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	島本 隆司	岡三証券
秋月 学	野村証券	清水 俊宏	アセットマネジメント One
秋山 貢一	岡三証券	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
綾田 純也	JP モルガン証券	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
有沢 正一	岩井コスモ証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 健士	みずほ証券
石塚 大	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
和泉 美治	SBI 証券	谷林 正行	QUICK
磯 光裕	野村アセットマネジメント	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	富井 喜隆	MU 投資顧問
今津 拓洋	アセットマネジメント One	富田 展昭	極東証券経済研究所
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	豊田 博幸	QUICK
内野 晃彦	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	中根 康夫	みずほ証券
浦 昌平	アムンティ・シージャパン	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
江澤 厚太	シティグループ証券	西平 孝	岡三証券
大芦 尚広	朝日ライフ アセットマネジメント	西村 美香	クレディ・スイス証券
大川 淳士	大和証券	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大牧 実慶	立花証券	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岡崎 優	野村証券	藤原 毅郎	シティグループ証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
小野 雅弘	モルガン・スタンレー MUFG 証券	堀 雄介	みずほ証券
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	堀井 章	ニッセイ アセット マネジメント
小野 友嗣	野村アセットマネジメント	グレアム マクドナルド	シティグループ証券
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
桂 竜輔	SMBC 日興証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
蒲生 宗央	野村アセットマネジメント	南 純一	りそなアセットマネジメント
川島 隆治	大和アセットマネジメント	森 貴宏	みずほ証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	山崎 雅也	野村証券
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
斉田 健一	みずほ証券	山田 幹也	みずほ証券
榮 哲史	大和証券	山本 真以人	ニッセイ アセット マネジメント
佐々木 健太郎	シュローダー・インベストメント・マネジメント	横山 礼文	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
佐渡 拓実	大和証券	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	吉積 和孝	SMBC 日興証券
佐原 孝輔	丸三証券	和田木 哲哉	野村証券
醒井 周太	ニッセイ アセット マネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
芝野 正紘	シティグループ証券		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。